



平成27年7月12日、午前中に理事会、総会を経て、同日午後1時から演題Ⅰ「地域で支える摂食嚥下」耳鼻咽喉科医にできること・耳鼻咽喉科だからできること」

第22回 講演会報告



という演題で東京都健康長寿医療センター耳鼻咽喉科医長の木村百合香先生が講演された。後半は演題Ⅱ「認知症の食支援」という演題で北海道医療大学 地域保健看護学講座教授の山田律子先生が講演された。当日は200名弱の参加者があった。

埼玉県摂食・嚥下研究会だより

— 高齢化時代のセーフティ・ライフを目指して —

vol.29

発行日
平成27年10月13日

発行者
埼玉県摂食・嚥下研究会
事務局
埼玉県浦和区針ヶ谷4-2-65
彩の国すこやかプラザ5F
埼玉県歯科医師会内
TEL 048-829-2323

I 地域で支える摂食嚥下く耳鼻咽喉科医にできること・耳鼻咽喉科だからできること

講師 東京都健康長寿医療センター耳鼻咽喉科医長
木村百合香先生



木村先生は耳鼻咽喉科医と嚥下障害診療について話された。その中で、「嚥下障害の治療法の一つに外科治療があることを知っているか」というアンケートでは在宅医、歯科医の半数は知らないという結果が出た。

図1にあるように誤嚥群の影響度の高い症状として、「食事時間の延長がオッズ比で255・5」と高い値を示し、「食事中にむせる4・2 食事中に咳が出る0・2」

4」と低い値が出た。この数値から高齢者では喉頭知覚が低下していることがわかる。

図2にあるように認知症、パーキンソン症候群等の原因疾患や社会的背景も含めた包括的な指導が必要である。

耳鼻咽喉科医にできることという内容で、急性期嚥下障害への対応や回復期の外科治療を実際の症例をスライドで説明された。

誤嚥群の影響度の高い症状

症状	オッズ比
食事時間の延長	255.5
嚥下時に頸部前屈	146.3
痰がのどにからむ	39.7
のどに違和感	16.7
痰が増えた	5.1
食事にムセる	4.2
食事中に咳が出る	0.4
口腔内が汚い	0.2

高齢者では喉頭知覚が低下⇒食事にむせない
＝不顕性誤嚥は誤嚥全体の30-70%

(西山耕一郎, 他, 日耳鼻, 2010;113:542-8)

人間にとって食べる行為は単に栄養補給だけではなく、行為その



山田先生は初めにこれまで摂食嚥下機能という言葉で食支援について話をしてきたが、噛むこと(咀嚼)が生きていることとって非常に大切であると痛感し、摂食・嚥下機能の間に咀嚼という言葉を加えたと説明された。

II 認知症の食支援

講師 北海道医療大学看護福祉学部教授 山田律子先生

た。嚥下改善により吸引回数が減り、夜間の睡眠の確保ができたことが在宅への復帰に繋がった。介護者の気分の改善・満足度(81.7±9.9)は高まった。誤嚥防止術は失声の問題はあるが、①口から食べられる②痰の減少③介護者の負担減少等で有効な手術である。この講演は耳鼻咽喉科からの視点が嚥下障害患者に多くの福音を与えることができると感じた。

高齢者の嚥下機能評価

- 認知症における先行期の問題
- パーキンソン症候群における口腔期の障害
- 呼吸機能障害や耐久性の低下
- 介護体制の問題(経営の方が楽)
- VEは咽頭期嚥下機能を評価する検査

原因疾患や社会背景も含めた包括的な指導が必要

ものがたとえば便秘と関連し、また睡眠や体の休息や回復のバランスにも関係している。そこで、食べるために必要な体の仕組みを解説し、認知症ではどの時期で障害が起きると食べられなくなるか、それに対応するには食形態を4期モデルとプロセスモデルを明示された。特に認知症の高齢者を捉えるために外せないアセスメントの視点として、その方の生活史に関係する...「その人の生活の営みは加齢に伴う心身の変化と認知症の進行度がどの程度進んでいくかを考える必要がある。先行期では加齢に伴う感覚機能

認知症の高齢者を捉えるために外せないアセスメントの視点

(図1)

実際の食事場面を画面に映し出し、なぜ食べないのかといういくつかの原因を詳細に解説された。実際には認知症でなく白内障であってもその方が食事を取れる場合、つまりは認知症の人の立場になって考えると食支援の方向性が見えてくることも多々ある。また支援する立場の人も環境の一部であ

の変化を捉えること、意外に嗅覚として鼻からの風味を感じることにおいて鼻を感じ取ることも重要な要素である。認知症が食事に及ぼす影響と食支援の視点では、認知症の定義とその経過に伴う食行動の変化がどのように進むのか、食事拒否はなぜ食べないかをその真意を探索することが大切で、詳細なアセスメントを取ることで解明することも多い。(図1)

まとめ

1. 認知症の人への食支援では、1) 認知症の病態をふまえた視点、2) 生活者の視点、3) 加齢変化を含む心身の変化を考慮した視点
2. 認知症の人への食支援では、「食べない」ときの真の意味を見極めることが必要です。その際、生活史や認知症の原因疾患や重症度による摂食・咀嚼・嚥下障害の特徴も考慮しましょう。
3. 認知症の人からすれば、関わる人も環境の一部であることを自覚し、皆様の豊かな想像力と創造力と多職種からなるチームケアによって、認知症の人が食べる力を発揮できる喜びに満ちた環境となるよう整えましょう。

(図2)

最後に認知症の原因疾患・重症度を踏まえた摂食・咀嚼・嚥下障害の特徴と食支援の実際についていくつかの事例解説をされた。

まとめとしては、1、認知症の人の食支援では①認知症の病態をふまえた視点②生活者の視点③加齢変化を含む心身の変化を考慮した視点が大切。2、食べない時の真の意味を見極めることが重要。3、かかわる側の人も環境の一部であることを認識し、想像力と創造力と多職種によるチームケアにより、食べる力を発揮できる喜びに満ちた環境になるよう整える努力をすることが大事である。(図3)

バイオティーン **biotène**

乾きやすいお口をトラブルから守るために

ぬって うるおう

バイオティーン マウスウォッシュ

バイオティーン オールバランス ジェル

すすいで うるおう

新ブランド **Pepti-Sal** ペプチサル

2014年冬 発売予定

ジェントルトゥースペースト

お口をやさしくケア

発泡洗浄剤(ラウリル硫酸ナトリウム)、アルコール、バラベン無配合

お口によさしい低刺激性の歯みがき剤

Pepti-Sal Gentle Toothpaste

平成27年度 埼玉県摂食・嚥下研究会 第11回 総会報告

第1号議案 平成26年度事業報告の承認に関する件

1 会員数

- (1) 正会員 275名
(2) 賛助会員 32団体 (60口)

2 理事会

- (1) 日 時：平成26年7月27日(日)
(2) 場 所：彩の国すこやかプラザ 2階研修室

3 総会

- (1) 日 時：平成26年7月27日(日)
(2) 場 所：彩の国すこやかプラザ 2階研修室

4 講演会及び症例検討会

(1) 設立10周年記念式典並びに記念講演会

日時：平成26年7月27日(日) 13時～16時
場所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール
参加者：105名(正会員81名・賛助会員2名・非会員22名)
講演Ⅰ：摂食嚥下練習の考え方
講師：藤田保健衛生大学副学長 リハビリテーション医学講座教授 才藤 栄一

(2) 第9回症例検討会

日 時：平成26年11月30日(日) 13時～16時
場 所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール
参加者 111名(正会員67名・賛助会員10名・非会員34名)
講演Ⅰ：経口摂取の導入を目指した短期入院の試み
講 師：大生病院・リハビリテーション科言語聴覚士 藤井勇次郎
講演Ⅱ：特別支援学校から見えてくるもの—食事支援の対応と課題—
講 師：埼玉県立小児医療センター 保健発達部言語聴覚士 吉浦 詠子
講演Ⅲ：①嚥下圧(口腔内圧)の低下している方の訓練について
②多職種との地域(在宅)連携について
講 師：水戸医療センター 神経内科言語聴覚士 磯野 敦

(3) 第21回講演会

日時：平成27年2月8日(日) 13時～16時
場所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール
参加者：104名(正会員72名・賛助会員2名・非会員30名)
講演Ⅰ：「食べる」を支える連携—看護師の立場から—
演 題：①急性期病院における多職種連携
講 師：越谷市立病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 奥田 朋子
演 題：②急性期病院から回復期リハビリ病院への連携
講 師：さいたま市赤十字病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 矢野 聡子
演題③：回復期病院から在宅への連携
講 師：戸田中央リハビリテーション病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 兼本 佐和子
講演Ⅱ：歯科のない病院での口腔ケアチームの活動
講 師：(財)山梨厚生会塩山市民病院副院長 多和田 真人

5 その他

(1) 監査

日 時：平成26年5月16日(金)
場 所：埼玉県精神神経センター他

(2) 作業委員会(場所：彩の国すこやかプラザ)

日 時：平成26年5月29日(木)
日 時：平成26年8月7日(木)
日 時：平成26年9月11日(木)
日 時：平成27年1月15日(木)

(3) 10周年記念講演会に関する作業委員会

日 時：平成26年4月10日(木)
日 時：平成26年5月15日(木)

6 摂食・嚥下研究会だより、ホームページの作成・更新を実施した。

- (1) 埼玉県摂食・嚥下研究会だよりを発行(年3回：25号・26号・27号)
(2) ホームページの作成・更新 (<http://www.ssek.net/>)
(3) 編集委員会(場所：彩の国すこやかプラザ)
日 時：平成26年6月12日(木)
日 時：平成26年8月7日(木)
日 時：平成26年9月11日(木)

平成26年度 摂食・嚥下研究会収支決算書

(収入の部)

(単位：円)

項	本年度予算額	本年度決算額	差異
入会金収入	30,000	23,000	7,000
会費収入	1,410,000	1,425,000	15,000
事業収入	780,000	206,000	574,000
寄付金収入	0	0	0
雑収入	0	80	80
当年度収入合計	2,220,000	1,654,080	565,920
繰越金	822,450	822,450	0
収入合計	3,042,450	2,476,530	565,920

(支出の部)

項	本年度予算額	本年度決算額	差異
事業費	2,942,450	2,287,575	654,875
1.理事会・総会費	(321,600)	(361,005)	(39,405)
2.講演会費	(1,620,000)	(1,390,086)	(229,914)
3.広報費	(1,000,850)	(536,484)	(464,366)
予備費	100,000	0	100,000
当年度支出合計	3,042,450	2,287,575	754,875
次期繰越収支差額		188,955	

第3号議案 平成27年度事業計画の承認に関する件

本格的な高齢社会を迎え、高齢者が一生元気で、健康な生活を送ることが切実な課題となっています。「食べる」ことに障害を持つ高齢者や障害児(者)が大勢いるにもかかわらず、その取組みが遅れています。埼玉県摂食・嚥下研究会は、摂食・嚥下障害の諸問題への対応や啓発指導、リハビリテーションなど目的を達成するために以下のとおり事業を行います。

1 講演会及び症例検討会の開催

(1) 第22回講演会

日 時：平成27年7月12日(日) 13時～16時
場 所：彩の国すこやかプラザ 2階セミナーホール
講演Ⅰ：地域で支える摂食嚥下～耳鼻咽喉科医にできること・耳鼻咽喉科医だからできること～
講 師：地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

耳鼻咽喉科医長 木村 百合香

講演Ⅱ：認知症の人の食支援

講師：北海道医療大学 看護福祉学部 看護学科

地域保健看護学講座（老年看護学部門）教授

山田 律子

(2) 第10回症例検討会

日時：平成27年11月29日（日）

場所：彩の国すこやかプラザ

演題1：「(仮題)ミールラウンドについて

～口から食べることをみんなで支える～

講師：東京医科歯科大学大学院医学総合研究科 老化制御学系

口腔老化制御学講座高齢者歯科学分野助教 原 豪志

症例検討：「(仮題)ミールラウンドの実際の症例」

埼玉県摂食嚥下研究会広報担当理事 大渡 廣信

演題2：「(仮題)施設における嚥下食の統一化について」

講師：(一社)埼玉県介護支援専門員協会前理事長

野呂 牧人

症例検討：「(仮題)施設における取り組みの紹介」

北埼玉歯科医師会 石川 誠一

(3) 第23回講演会

日時：平成27年2月14日（日）

場所：彩の国すこやかプラザ

演題・講師：選定中

2 摂食・嚥下研究会だより発行、ホームページの作成・更新

埼玉県摂食・嚥下研究会だよりを発行（年3回）

ホームページの更新（http://www.ssek.net/）

3 摂食・嚥下研究会メーリングリストの作成

4 その他

必要に応じて作業委員会、摂食・嚥下研究会だより編集委員会を開催する。

平成27年度 摂食・嚥下研究会収支予算書

(収入の部)

(単位：円)

項	本年度予算額	前年度予算額	差異
入会金収入	30,000	30,000	0
会費収入	1,440,000	1,410,000	30,000
事業収入	570,000	780,000	210,000
寄付金収入	0	0	0
雑収入	0	0	0
当年度収入合計	2,040,000	2,220,000	180,000
繰越金	188,955	822,450	633,495
収入合計	2,228,955	3,042,450	813,495

(支出の部)

項	本年度予算額	前年度予算額	差異
事業費	2,128,955	2,942,450	813,495
1.理事会・総会費	(442,960)	(321,600)	(121,360)
2.講演会費	(1,270,000)	(1,620,000)	(350,000)
3.広報費	(415,995)	(1,000,850)	(584,855)
予備費	100,000	100,000	0
当年度支出合計	2,228,955	3,042,450	813,495

◆第5号議案 役員を選任に関する件

【提案理由】 役員を選任に関する件について、会則第11条第3号の規定に基づき、提案いたします。なお、任期は平成27年4月1日～平成29年3月31日までとする。

埼玉県摂食・嚥下研究会役員名簿

(平成27年7月12日現在)

役職	氏名	役職
会長	金井 忠男	埼玉県医師会長
副会長	島田 篤	埼玉県歯科医師会長
副会長	鯉渕 肇	埼玉県薬剤師会長
副会長	三浦 宜彦	埼玉県立大学長
専務理事	藤野 悦男	埼玉県歯科医師会 地域保健部副部長
理事 (総務・会計)	三木 昭代	埼玉県歯科医師会理事 地域保健部長
理事 (広報)	大渡 廣信	埼玉県歯科医師会 地域保健部員
理事	池田里江子	埼玉県薬剤師会常務理事
理事	内田 淳	埼玉県社会福祉事業団嵐山郷 医療部医幹
理事	大岡 貴史	明海大学歯学部機能保存回復 学講座摂食嚥下リハビリテー ション学分野准教授
理事	大久保喜恵子	埼玉県歯科衛生士会長
理事	大橋 幸子	埼玉県作業療法士会理事・事 務局長
理事	大前由紀雄	埼玉県耳鼻咽喉科医会会員
理事	大矢ノリ子	埼玉県看護協会常務理事
理事	小川 郁男	坂戸鶴ヶ島医師会長
理事	廣澤 信作	埼玉県医師会常任理事
理事	清水 充子	埼玉県言語聴覚士協会会長
理事	膳亀 昭三	埼玉県薬剤師会副会長
理事	高久 悟	埼玉県立大学健康開発科教授
理事	棚橋 紀夫	埼玉医科大学国際医療センタ ー脳卒中内科教授
理事	出浦 恵子	埼玉県歯科医師会地域保健部 副部長
理事	中里 義博	埼玉県歯科医師会会員
理事	中島 悦子	埼玉県訪問看護ステーション 協会会長
理事	長谷川佳和	埼玉県介護支援専門員協会 代表理事
理事	平野 孝則	埼玉県栄養士会長
理事	深井 穂博	埼玉県歯科医師会常務理事
理事	水田 宗達	埼玉県理学療法士会事務局長
理事	三谷 雅人	大宮医師会理事
理事	安井 利一	明海大学学長
理事	湯澤 俊	埼玉県医師会副会長
監事	岩上 榮吉	埼玉県歯科医師会専務理事
監事	丸木 雄一	埼玉県内科医会理事

第10回 症例検討会

日時：平成27年 **11月29日**（日） 13：00～16：00

場所：彩の国すこやかプラザ 2階セミナーホール

演題1：「(仮題)ミールラウンドについて～口から食べることをみんなで支える～」

講師：東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科老化制御学系 口腔老化制御学講座
高齢者歯科学分野研修登録医 原 豪志先生

症例検討：「(仮題)ミールラウンドの実際の症例」
埼玉県摂食嚥下研究会広報担当理事 大渡 廣信

演題2：「(仮題)施設における嚥下食の統一化について」

講師：(一社)埼玉県介護支援専門員協会前理事長 野呂 牧人先生

症例検討：「(仮題)施設における取り組みの紹介」
北埼玉歯科医師会 石川 誠一

質疑応答

《 医療介護総合確保推進法に基づく本県での取り組みに関する情報提供 》

I「地域在宅歯科医療推進体制整備事業について」

(一社)埼玉県歯科医師会地域保健部副部長・埼玉県摂食嚥下研究会理事 出浦 恵子

II「(仮題)(公社)埼玉県歯科衛生士会の取り組みの紹介」

(公社)埼玉県歯科衛生士会専務理事 落合 美穂

■定員：250名

※参加者多数の場合はご連絡いたします。
※改めて参加証はお送りいたしません。

■参加費：会 員 / 無 料

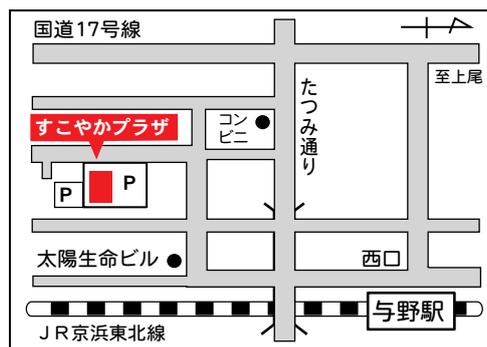
非会員 / 2,000円 (資料作成代等)

■申込締切日：11月23日 (月)

主 催：埼玉県摂食・嚥下研究会

問合せ：埼玉県歯科医師会事務局 TEL 048-829-2323

助 成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美財団



参加申込書 埼玉県摂食・嚥下研究会 (会員・非会員) ※どちらかに○を付けてください

フリガナ		職 種	
氏 名		電 話	
住 所 (勤務先)	〒 -	F A X	

申込書 FAX先 **048-829-2376**